

1 1	海部	弥富市立 十四山東部小学校	ヤマモト ダイキ 名前 山 本 大 貴
分科会番号	特	分科会名	「特別の教科道徳」特別分科会

研究題目

「道徳的価値のよさや大切さを理解し、これからの生き方に生かそうとする児童の育成」
—道徳授業構想シートの運用と振り返りの深化を通して—

研究要項

1 ねらい

本校は、道徳教育の研究を開始して2年目を迎える。昨年度は、児童が道徳的価値のよさや大切さを深く理解できるようにするため、二つの手だてに重点を置き、授業実践を重ねてきた。一つ目は、授業者が毎時間、明確なねらいをもって授業に臨むことである。その成果として、すべての授業において道徳授業構想シートを作成し、全学年分を蓄積することができた。二つ目は、振り返りの充実である。毎時間の振り返りに加え、学期末や年度末に一定期間の学びを振り返る時間を設定した。その結果、学習内容を見直し、道徳的価値を実現しようとする児童が多く見られた。一方で、課題も明らかとなった。まず、道徳授業構想シートを作成することにとどまり、授業改善に十分に生かしきれなかった点である。次に、児童の振り返りを次の学びにつなげたり、価値付けたりする教師の働きかけが十分とは言えず、学びの深まりに個人差が見られた点である。

そこで、本年度は「道徳授業構想シートの運用と振り返りの深化を通して」を研究の柱とする。道徳授業構想シートの運用とは、毎時間、昨年度に作成したシートを見直して授業に臨むとともに、授業後によかった点や課題、板書等を記録し、次の実践に生かしていくことである。また、振り返りの深化とは、児童の毎時間の振り返りに対して教師が言葉を添え、価値付けを行うとともに、前時の振り返りを学級で共有したり、学期末や年度末の振り返りを保護者と共有したりすることで、学びを普段の生活や今後の生き方につなげる意欲を高めることである。これらの取組を通して、道徳的価値のよさや大切さをより深く理解し、自分の成長や課題を自覚した上で、これからのよりよい生き方に生かそうとする児童の育成を目指す。

2 研究の方法

(1) 研究の仮説

- ① 道徳授業構想シートを運用し、授業を改善し続けることができれば、児童は道徳的価値のよさや大切さをより深く理解することができるであろう。
- ② 振り返りを深化していくことができれば、児童は学んだことを普段の生活や今後の生き方につなげることができるであろう。

(2) 手だて

- ① 昨年度作成した道徳授業構想シートを基に、明確なねらいとねらいに迫る発問構成を見直した上で授業に臨む。また、授業後、反省点や板書等を道徳授業構想シートに残していく。
- ② 毎時間の児童の振り返りに対して教師が言葉を添えて価値付けし、次時に児童と共有する。また、学期末には振り返りを保護者と共有し、児童が自身の成長や課題を見つめる機会を増やす。

3 研究の実践と考察

(1) 道徳授業構想シートの運用（手だて①）

① 1年生の実践「かぼちゃのつる」（A 節度、節制）

出典「小学校道徳1 はばたこう明日へ」

ア 道徳授業構想シートの運用

	昨年度（令和7年度）	今年度（令和8年度）
ね ら い	わがままなかぼちゃの行いに対して、他の登場人物たちがどんな気持ちになっているのかを考え、周りの人の気持ちも考えて行動することで、皆が気持ちよく過ごせることに気付き、皆で気持ちよく生活しようとする態度を養う。	わがままをしてしまうかぼちゃに自我関与しつつ、つるを切られて泣いているかぼちゃにどんな言葉をかけるか考えるを通して、わがままをしたくなる気持ちに負けず、皆のことを考えて行動すると、自分も皆も気持ちよく過ごせることに気付き、自分の置かれた状況をよく考えて、自分の弱い心に負けないようにしようとする心情を育てる。
発 問	① 「わがまま」ってどんなことかな。 ② わがままを言ったことあるかな。 ③ つるが伸びるのはいいことかな。 ④ みつばち、すいか、こいぬはどんな顔をしているかな。 ⑤ なぜ悲しそうなのだろう。 ⑥ かぼちゃは自分勝手につるを伸ばしたね。最後はどうなったかな。 ⑦ どうすればかぼちゃは泣かずにすんだのかな。教えてあげよう。	① 「わがまま」をしてしまった経験はあるかな。 ② みつばち、すいか、こいぬに対してかぼちゃは何と言っただろう。 ③ どうしてかぼちゃはわがままをしてしまったのだろう。 ④ つるを車にひかれてしまったかぼちゃは何と言っただろう。 ⑤ 皆からかぼちゃに言葉をかけるなら、どんな言葉をかけてあげられるかな。（体験的な活動）

【資料1 道徳授業構想シートの内容の比較表】

昨年度は、かぼちゃへの自我関与が弱く、表面的な意見に終始してしまったという課題が残った。そこで今年度は、その反省を基に道徳授業構想シートのねらいや発問を見直し（資料1）、わがままをしてしまったかぼちゃに寄り添い、周囲のことを考えつつも「皆のことを考えて行動し、自分の弱い心に負けない」という理解を目指すこととした。

イ 考察

今年度の授業では、発問③を加えたことで、わがままを自分事として捉えさせ、「友達を困らせたくないからわがままだししない」「違うやり方を考える」などの意見を引き出すことができた。一方、周囲の視点から、「優しく声をかけてあげるとよい」、「きつく言わない」などの意見も多く、視点をかぼちゃに絞った方がよかったのか、検討の余地が残った。



【資料2 体験的な活動の様子】

ウ 道徳授業構想シートへの記録

わがままをしてしまうかぼちゃに自我関与させることはできた。来年は、かぼちゃに言葉をかけてあげた後、どのようにねらいに近づけていくか考えるとよい。（授業者の記録）

今回は、発問⑤の体験的な活動（資料2）だけで終わるのではなく、それを生かしてさらにねらいに迫っていける手立てを考える必要があることが明らかとなった。

② 3年生の実践「ヒキガエルとロバ」（D 生命の尊さ）

出典「小学校道徳3 はばたこう明日へ」

ア 道徳授業構想シートの運用

	昨年度（令和7年度）	今年度（令和8年度）
ね ら い	ロバが去った後のアドルフとビエールの様子から、生命を粗末に扱うことの愚かさや、自分が苦しくなっても他の命のためにがんばることの気高さについて考えることを通して、他の生き物の命を大切に生き方は、生き物としての誇りや後悔しない生き方につながることに気付き、身の回りの生き物を大切にしようとする心情を育てる。	泥まみれになり、自分の体を張ってヒキガエルを助けようとしたロバの姿や、それを見たアドルフたちに自我関与させることを通して、どんなに小さい生き物であっても、その命に変わりのない重みがあり、等しく尊重されるべきであることに気付き、自他の生命をかけ替えのないものとして大切にしようとする道徳的心情を育てる。
発 問	① 生き物を大切にしたい経験はあるかな。 ② 石を投げているときのアドルフとヒキガエルは、どんな気持ちだったのかな。 ③ ヒキガエルとロバのやり取りを見たアドルフたちの気持ちを考えよう。 ④ 生き物を大切にするのはなぜだろう。	① 命はなぜ大切なのだろう。 ② なぜアドルフたちは、ヒキガエルに石をぶつけるのだろう。 ③ なぜアドルフたちは、ヒキガエルが荷車にひかれそうになる様子を面白がって見ているのだろう。 ④ なぜロバは苦しいのに向きを変えたのだろう。 ⑤ 自分はアドルフとロバのどちらの考え方に近いだろう。（心の数直線）

【資料3 道徳授業構想シートの内容の比較表】

昨年度は、ヒキガエルに焦点を当て、「どの生き物の命も等しく大切である」という理解を中心とした。しかし、それでは既に分かっていることの確認にとどまり、道徳的価値についての理解を深めることができないと考えた。そこで今年度は、その反省を踏まえ、ロバとアドルフたちに自我関与させ、「命の大切さは理解していても、それを行動に移せないことがある」という人間の弱さにも目を向けられるよう授業を構想した（資料3）。

イ 考察

発問⑤の心の数直線（資料4）では、自分はアドルフの考え方に近いと位置付ける児童もあり、自身の行動や考え方を振り返る姿が見られた。また、振り返りに、過去に生き物を大切にできなかった自分の行動を振り返り、その経験を反省する記述も見られた。このことから、表面的に「命は大切である」と理解するだけでなく、自らの経験と結び付けて生命を尊重することの意味について考えを深めることができたと考えられる。



【資料4 心の数直線】

ウ 道徳授業構想シートへの記録

心の数直線を取り入れたことで、自身の行動や考え方を振り返り、生き物を大切にしようとする気持ちを高めることができた。一方で、アドルフやロバに自我関与して考えることが難しい児童については、生命の尊さという道徳的価値を理解することはできたものの、それを十分に自己の生き方に結び付けて考えるまでには至らなかった。（授業者の記録）

今回は、ロバの行動の尊さを児童が実感を伴って捉えられるような発問を加えるとともに、終末で学習前の問いに立ち返る発問を設定し、生命尊重についての考えの深まりや、今後の自分の生き方を見つめられるよう、発問構成を見直す必要があると考える。

③ 6年生の実践「ひきょうだよ」（C 公正、公平、社会正義）

出典「小学校道徳6はばたこう明日へ」

ア 道徳授業構想シートの運用

	昨年度（令和7年度）	今年度（令和8年度）
ね ら い	ぼくが、たかひろさんの転校を知って謝る場面に焦点を当て、「ひきょうだよ」という言葉の意味を考えることを通して、いじめにおける卑怯な行為とは、自分の身を守るために傍観者となったり、自分の気持ちを軽くするために謝ったりすることであることに気づき、自分の弱さに負けることなく、相手のために自分にできることを考え、行動しようとする態度を養う。	たかひろさんの「ひきょうだよ」という言葉の意味を考えることを通して、いじめにおいて卑怯な行為とは、自分の身を守るために傍観者となったり、自分の気持ちを軽くするために謝ったりすることであることに気付くとともに、卑怯なことをした記憶は後の人生にも影響を与えることを理解し、自分の弱さに負けることなく、相手のために自分にできることを考え、行動しようとする態度を養う。
発 問	① 自分がぼくだったら何ができるか。 ② 自分がぼくだったら、何と言うだろう。自分がたかひろさんだったら、それに対して何て返すだろう。 ③ たかひろさんは、ぼくの何を卑怯だと言っているのだろう。	① 自分がぼくだったらどうするか。 ② 自分がたかひろさんだったら、何と答えるか。（体験的な活動） ③ たかひろさんは、ぼくの何が卑怯だと言っているのか。 ④ 「ぼく」は、これからよい人になれるのか。

【資料5 道徳授業構想シートの内容の比較表】

昨年度は、「主人公のような卑怯な行動をしない」という理解にとどまり、自己の生き方まで十分に考えを深めることができなかった。そこで今年度は、「卑怯なことをした記憶は、その後の人生にも影響を与え続ける」という視点を加え、自らの行動を見つめ直し、今後の生き方に生かそうとする意識を高められるよう道徳授業構想シートを見直した（資料5）。

イ 考察

児童の振り返りには、「いじめを傍観し、自分の気持ちを楽にするために謝罪をして罪悪感から逃れようとしたことは、一生自分の中に残ってしまうので、自分のクラスでいじめがあったら、絶対に助けたい。大人になっても、この考えをもって生きていきたい」という記述が見られた。このように、児童の振り返りからは、学んだことを自己の生き方と結び付け、今後の行動について考えようとする姿が多く見られた。一方で、発問④により、「これからの生き方」への意識は高まったものの、本時のめあてである「いじめの中で卑怯なことは何か」について、十分に整理して記述できていない児童も見られた。

ウ 道徳授業構想シートへの記録

発問④を加えたことで、いじめ問題における自分自身の在り方や、これからの生き方について考えさせることができた。一方で、「いじめの中で卑怯なことは何か」という本時のめあてについて十分に整理できず、価値理解が十分に深まらなかった児童も見られた。（授業者の記録）

今回は、児童の実態を踏まえ、発問④を取り入れるかどうかを慎重に判断するとともに、本時のめあてである「いじめの中で卑怯なことは何か」という発問について、じっくり考えた上で、自己の生き方へとつなげられるよう、発問構成を見直す必要があると考える。

(2) 振り返りの深化（手だて②）

① 毎時の振り返りへの教師の価値付け

ア 実践

どの学年も毎時間、児童がノートやワークシートに書いた振り返りに対して、教師がコメントを書き添えた。特に、道徳的諸価値に気付いている点、自分事として考えられている点、見方が広がっている点、今後の生活に生かそうとしている点について価値付けるようにした。

イ 考察

教材 内容項目	第8回「父の言葉」 (B 親切、思いやり)	第10回「米百俵」 (C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)
めあて	「思いやっているつもりで思いやりって何だろう」	「先人の想いを、どのように受け継いでいけばよいのだろうか」
児童の 振り返り	私は、今回の道徳で、「本当の思いやりとは何だろうか」ということを自分のテーマにしました。私の考える本当の思いやりとは、相手の気持ちを優先して、自分が傷つく可能性があっても、それを乗り越えて声をかける勇気を持ち、行動することです。でも、これは私の考えなので、別の意見も聞いて、もっと考えを深めることが「本当の道徳」だと、私は思います。	今回の私のテーマは「自分が苦しんでまでも、次の世代の人たちに受け継ぐためには、どのような気持ちや努力が大切か」ということです。未来の子どもたちのことを考え、今は苦しくても、がんばれば未来の自分は楽になるという気持ち大切だと思います。私はあと9年、次の世代の人が困ることのないように、昔の人が受け継いでくれたことを受け継いでいきたいと思っています。私は虎三郎さんがいたから、このような考え方ができたのだと思い、感謝しているので、私もいつか、感謝してもらえよう人になりたいです。
コメント	与えられたテーマについて勉強するのではなく、自分で何について学ぶのか考えることができていますね。思いやりについて自分の考えを明確にもち、その上で他の人からも学んで見方を広げようとする姿勢が素晴らしいです。	先人の努力のおかげで今があるということですね。未来の子どもたちのことにも思いを巡らせて、過去の人から受け継いだものをつなげていこうとする心構えがよいですね。つなぐ際、発展させてつなげられると、更によい未来になりそうですね。

【資料6 6年A児の振り返りの変化】

6年A児は第8回の道徳の振り返りで、自分でテーマを設定し、それを基に振り返りを書いた。その振り返りに対し、主体的に学ぶ姿勢を称賛し、道徳的価値に気付いている点、見方を広げようとする意識をもっている点を価値付けた。6年A児は、以降の道徳や他教科でも、自分のテーマを設定して主体的に学び、見方を広げようとする姿が見られた。一方で、教師が意図した価値についての理解を深めることが十分にできていない場面も見られた。第10回の道徳では、「よりよい社会を築いていこうと努力してくれた先人に思いを巡らせ、更に発展させて未来につなごうとする意識をもつ」ことをねらいとして教師はテーマを設定したが、「受け継ぎ、つないでいくための心構え」に重点を置いたテーマを児童が設定し、「受け継いだものをさらに発展させる」という視点が希薄になってしまった（資料6）。

② 前時の振り返りの共有

ア 実践

どの学年も毎時間、授業の冒頭で、数名の児童の前時の振り返りを全体で共有した。

イ 考察

教材 内容項目	第4回「だまって借りてもいいのかな」 (A 善悪の判断、自律、自由と責任)	第5回「友達だからこそ」 (B 友情、信頼)
めあて	「責任のある行動をするためには、何が大切だろう」	「本当の友達ってどんな関係だろう」
記述	責任のある行動をするときに大切なことは、自分のやったことをきちんと理解することと、相手の立場になって考えることだと思う。ひとみさんがやったことに対し、るいさんは許しているが、ひとみさんの中ではひそかにずっと残っていると思う。前の朝礼で校長先生が「ひどい言葉は、言ってしまった相手の心に残る」と言っていたけど、今、私が置き換えて言ってみると「ひどい行動は、相手の心にも、自分の心にも残る」となる。ひどい行動をしてしまったとき、一生相手や自分の心に残ってしまうかもしれないから、常に先を見越して考え、相手の立場になって考えて、必要なら自分にブレーキをかけられる自分でいたいと思う。	今日の道徳は、友美さんが友達のことも考えて正しい行動をしているのがすごいと思った。自分が怒られることだけではなく、友達が怒られないようにということまで考えて正しい行動を選んでるのがすごいと思った。自分なら交換していたかもしれないし、しなくても、自分が怒られないことしか考えられていないと思う。交換したい気持ちは分かるけど、一度やっていいか駄目か判断することが大切だと思うので、意識していきたい。先のことを考え、行動し、自分の事だけでなく、人のことも考えられる人になりたいです。やりたい気持ちもわかるけど、駄目だと思ったことはやらないことが大切だと思いました。

【資料7 6年B児（左）と6年C児（右）の振り返り】

6年C児は、前時の6年B児の振り返りを聞き、友情や信頼を育む際にも、善悪の判断や責任で学んだ「先のことを考えること」、「人のことを考えること」を生かせることに気付き、自分の生き方に生かそうとする意欲を高めることができた（資料7）。結果として、6年C児は前時の価値の見方を広げて考えることができた。

③ 学期末の振り返り

ア 実践

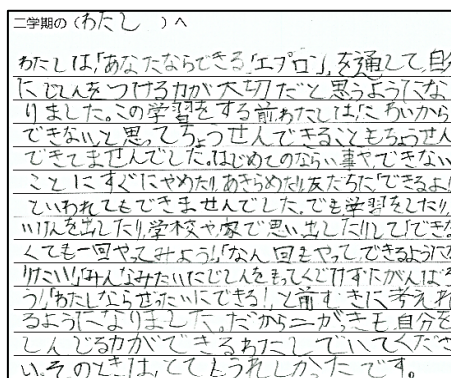
各学年において、学期末に道德の授業で学んだことを振り返る時間を設定した。3年生では、1学期に学習した12教材をイラスト化したカードを作成し、それらを仲間分けする活動を行った（資料8）。教材で学んだ内容の共通点や関連性を考えることで、これまでの学びをつなげて捉えることをねらいとした。さらに、活動を通して考えたことを基に、2学期の自分に向けて手紙を書く活動を行った（資料9）。



【資料8 イラストカードを仲間分けしている様子】

イ 考察

4～5人のグループで教材同士の共通点や関連性について話し合うことで、一つ一つの教材で学んだ道德的価値を関連付け、より広い視点から捉え直すことができた。例えば、「ヒキガエルとロバ」（D 生命の尊さ）と「仲間だから」（B 友情、信頼）、「気づく心」（B 親切、思いやり）をまとめ、「人や生き物を大切にすること」と捉えたり、「新聞係」（C 規則の尊重）と「悪いのは私じゃない」（A 正直、誠実）をまとめ、「ダメと気付ける心」と捉えたりする姿が見られた。また、「エプロン」（A 個性の伸長）と「あなたならできる」（A 節度、節制）を関連付け、「自分を信じる力」と捉えるなど、個々の学びをつなぎ、新たな意味を見出すことができた。



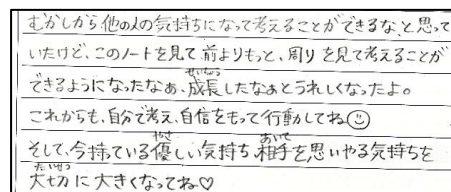
【資料9 2学期の自分に向けての手紙（3年D児）】

また、自分自身に向けて手紙を書く活動では、これまでの学習を振り返りながら、これから大切にしていきたいことや目指したい自分の姿を具体的に考えることができた。学んだ道德的価値を、今後の生活に生かそうとする意欲につながれた。

④ 保護者からのコメント

ア 実践

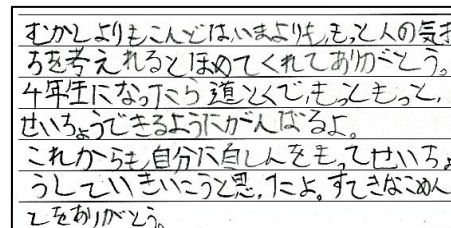
学期末の道德科の振り返りを保護者に読んでいただき、子どもの学びに対する感想や、子どもへのメッセージを書いていただいた（資料10）。その後、児童が保護者からのコメントを読み、感じたことや考えたことをワークシートに記録する活動を行った。



【資料10 保護者からのコメント（3年D児の保護者）】

イ 考察

保護者からのコメントを読んだ児童は、認められたことで自己の成長を見つめ直したり、自分では気付いていなかった考え方のよさに気付いたりしていた。また、保護者からのコメントをきっかけに、学びを今後の生活に生かそうとする意欲が高まったことが読み取れる記述が多くの児童から見られた（資料11）。



【資料11 児童のワークシート（3年D児）】

4 研究の成果と課題

(1) 成果

① 道德授業構想シートの運用（手だて①）

「道德の授業を通して、『人として大切なこと』や『生きていくうえで大切なこと』を考えることができましたか」というアンケートを、全校児童を対象として行った。「1.よく考えることができた」と「2.少し考えることができるようになった」と回答した児童を合わせると、全体の

95%を占めた(資料12)。1や2と回答した児童からは、「道徳ってやっぱり深くて、人生につながるものだなとよく分かったからです。相手の気持ちを考え、行動に移すことは、道徳を学んでからやるようになりました。生きていく上で大切なことはいろいろあるけど、一人一人大切なものは違ってくるのだなと今年分かったからです」や「人として相手の気持ちを深く考えられるようになったし、未来のことを考えることが生きていく中でとても大切なことだとよく分かったから」という理由が挙げられた。このことから、道徳授業構想シートを運用し、授業を改善し続けたことで、道徳的価値のよさや大切さを深く理解していると自己評価している児童が多かったことがうかがえる。

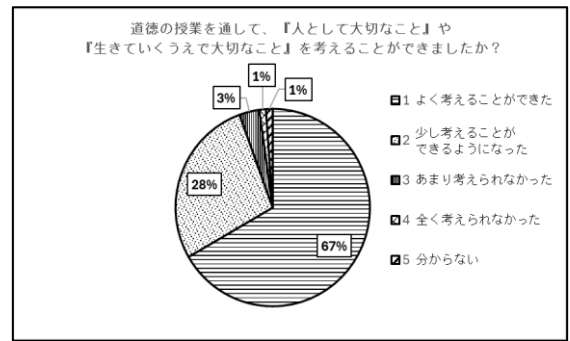
② 振り返りの深化(手だて②)

全校児童を対象として「道徳の授業で学んだことを、これからの自分の生活や生き方に生かしていこうと思えましたか」というアンケートを行った(資料13)。「1.とても思うことができた」と「2.少し思うことができた」と回答した児童を合わせると、全体の91%を占めた。1や2と回答した児童からは、「過去、現在、未来のつながりを考える。

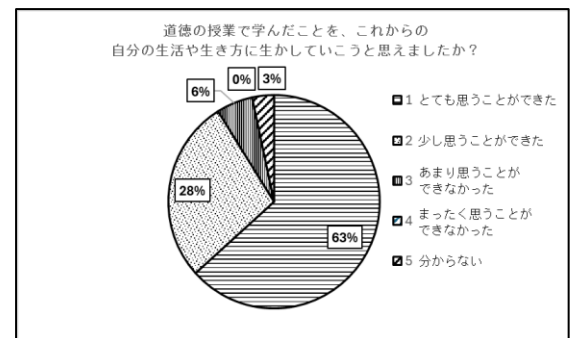
自分だけじゃなくて相手の気持ちも考えるなど、全部生かしていきたいから」、「せっかく道徳でいろんな考えが深まったから。生活に生かした方が自分のためにもなるからと思ったからです」という理由が挙げられた。このことから、振り返りの深化によって、多くの児童は学んだことを普段の生活や今後の生き方につなぐことができていると考えられる。

(2) 課題

(資料12)のアンケートでは、「3.あまり考えられなかった」「4.全く考えられなかった」「5.分からない」のいずれかを選択した児童は全体の5%であり、その多くは低学年の児童であった。このことから、低学年の児童にとって道徳的価値を理解することは容易ではなく、基礎的な内容から段階的に理解を深められるような指導を行う必要があることが示唆された。また、(資料13)のアンケートでは、「3.あまり思うことができなかった」と回答した児童が6%、「5.分からない」と回答した児童が3%であり、これらの回答は低・中・高学年の全てで見られた。特に、「3」と回答した児童からは、「生かせるなら生かしたいけれど、自分にできると思えなかったから」という理由が挙げられた。これらの結果から、学んだ道徳的価値を実践しようとする意欲を高めるためには、児童が自分に自信をもち、自ら実践できると感じられるよう支援することが重要であると考えられる。そのため、授業後の学校生活において、教師が児童の実践場面を適切に捉え、その行動を価値付けるとともに、励ましや称賛などの言葉がけを継続的に行うことが必要である。さらに、特別活動や総合的な学習の時間などとの関連を図りながら、道徳科で学んだ道徳的価値を学校生活でどのように生かすことができるかを児童に問いかけ、実践する機会を意図的に設定することも重要である。来年度は、道徳科と学校の教育活動全体を関連付けながら、学んだことを実践へとつなげる指導の充実を図っていきたい。



【資料12 手だて①に対するアンケート結果】



【資料13 手だて②に対するアンケート結果】